せて生成AIが新商品アイデアを生み出すこれまでにないプラットフォームの提供といった新規事業で地域産業活性化を推進するなど、その歩みは、日本全体のDXと社会の未来を切り拓く原動力となることが期待されている。

(2) QUINTBRIDGEの運営

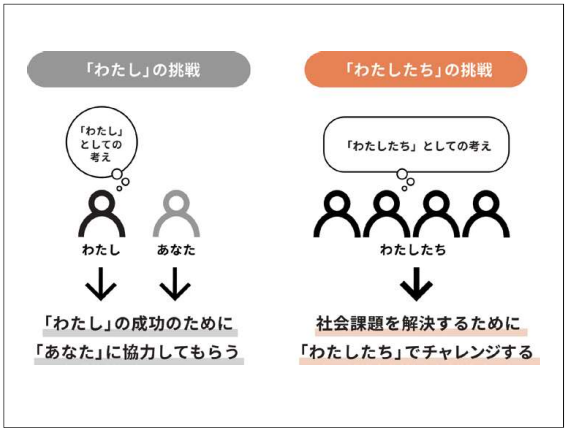
「DXは単なる業務効率化にとどまらない」とするNTTグループのDX戦略は、企業としての枠を超え、社会全体が抱える課題を解決して新たな価値をもたらし、未来を切り拓くモデルケースも示そうとしている。その象徴的な存在が、大阪・京橋に2022年に誕生した「QUINTBRIDGE」[27]（クイントブリッジ）である。

QUINTBRIDGEは、西日本最大のオープンイノベーション拠点であると同時に、オープンイノベーション3.0と呼ばれる新しい時代を代表する取り組みの一つとして位置付けられており、地域に根ざしながら世界とつながる新たな姿を描こうとしている。その理念は「‘わたし’の挑戦を、‘わたしたち’の挑戦へ」という精神に基づいており、企業、スタートアップ、自治体、大学、市民団体といった多様な主体との連携を通じて、地域課題の解決を重視した「地域密着型イノベーションモデル」の確立や社会実装を加速させる場として注目を集めている（**図表4-6-8**）。

QUINTBRIDGEは、従来のオープンイノベーションをさらに進化させた「3.0」の実現をめざしている。「1.0」が企業間における技術等共有、「2.0」がユーザーを中心に据えた共創であったのに対し、「3.0」は特定の地域や場を基盤とし、リアルとバーチャルを融合し、地域基盤に根ざした持続可能なエコシステムを構築するモデルである。参加者は日常的に交流し、自然発生的に協働を生み出し、社会実装を支援するプログラムを通じて新規事業や社会的インパクトの創出をめざしている。その成果として、奈良県三宅町と連携したスマートシティ構築や住民サービスのデジタル化、大手企業やスタートアップの共創による新たな事業機会を創出するリバースピッチプログラムの実施などが生まれており、課題解決型の共創エコシステムとしてのQUINTBRIDGEの力を証明している。

QUINTBRIDGEのもう一つの重要な使命は、次世代のイノベーターを育成することである。QUINTBRIDGEでは、専門的な教育プログラムや実践的なワークショップが提供され、異分野の専門家同士が交流することで、多様な視点を取り入れた問題解決が可能な環境が整備されている。特に「We Lab.」や「I Lab.」といったプログラムを通じて若手人材や地域リーダーが育成され、多くの参加者が新たな知識を学び、実践を重ねている。この取り組みにより、学びと実践が循環するイノベーション人材のネットワークが形成されている。

図表4-6-8 ▶QUINTBRIDGEの理念



出所：QUINTBRIDGE「QUINTBRIDGEの理念」

QUINTBRIDGEは単なるイノベーション施設ではない。課題解決型の共創エコシステムを体現する場であり、地理的制約を超えた協働を可能にし、異分野の知見を結びつけることで、これまでにない価値を生み出している。NTTグループのDX戦略を具現化する象徴として、QUINTBRIDGEは国内外のイノベーションエコシステムを牽引する存在へと進化し続けている。この施設が未来への架け橋として、社会全体にどのような変革をもたらすのか。その答えは、これからの挑戦にある。

(3) 事業共創プログラム「OPEN HUB for Smart World」

NTTコミュニケーションズは、2022年2月、最先端技術を備えたワークプレイス「OPEN HUB Park」を大手町プレイスウエストタワー内に開設した（**図表4-6-9**）。この施設は、2021年10月に開始した事業共創プログラム「OPEN HUB for Smart World」の中心的な活動拠点として位置付けられている。

「OPEN HUB Park」では、NTTグループの最先端技術を活用し、ユーザーやパートナー企業との共創を通じて新たなビジネスの創出と社会実装をめざしている。施設内には、没入感のあるデジタルサイネージ「OPEN HUB Monoliths」や、大画面のLEDモニター「OPEN HUB Visualizer」などが設置され、来訪者のインスピレーションを高揚させる体験を提供している。

さらに、IOWN構想に基づくオールフォトニクス・ネットワーク（APN）を活用した非圧縮8K120p映像の超低遅延伝送実験や、欧州のデータ流通プラットフォーム「GAIA-X」との接続によるグローバルサプライチェーンのCO_2排出量可視化など、最先端のICTインフラを駆使した

27 「Quintillion（百京）」と「Bridge（橋）」を組み合わせて命名された。京橋の地名とも掛かっており、それと同時に幾多のビジネスを生み出し、未来への架け橋になろうという意味も込められている。